

インフルエンザ - 五類感染症 -

資料1

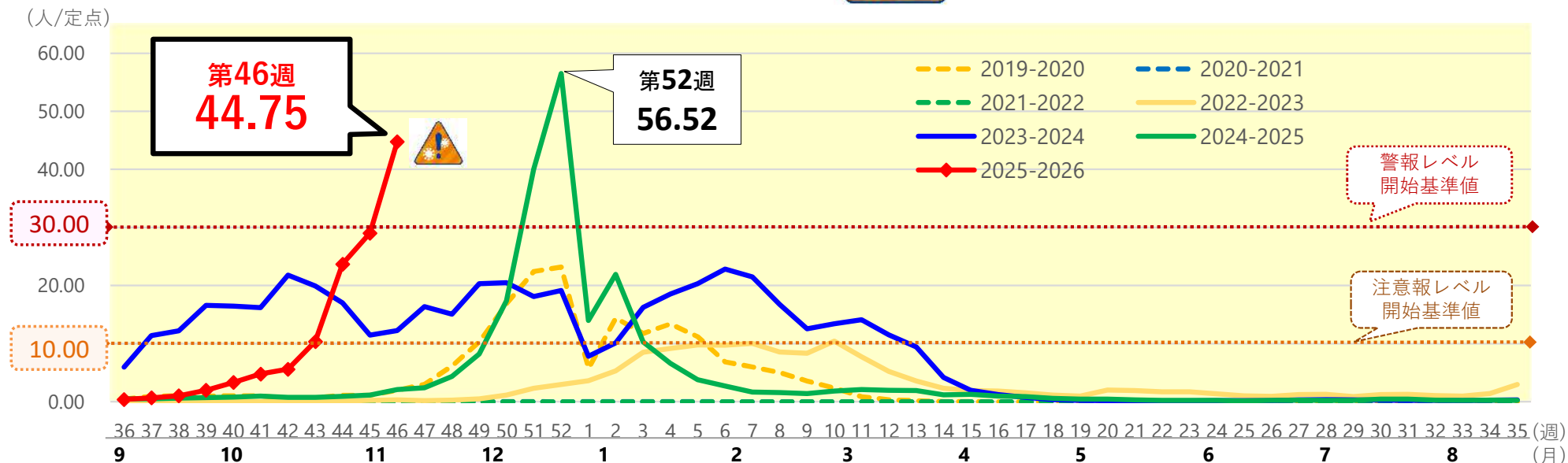
警報レベル

～ 今後注意が必要な感染症 ～

都内定点医療機関あたりの患者報告数



2025年のデータは第46週(11月10日～11月16日)まで



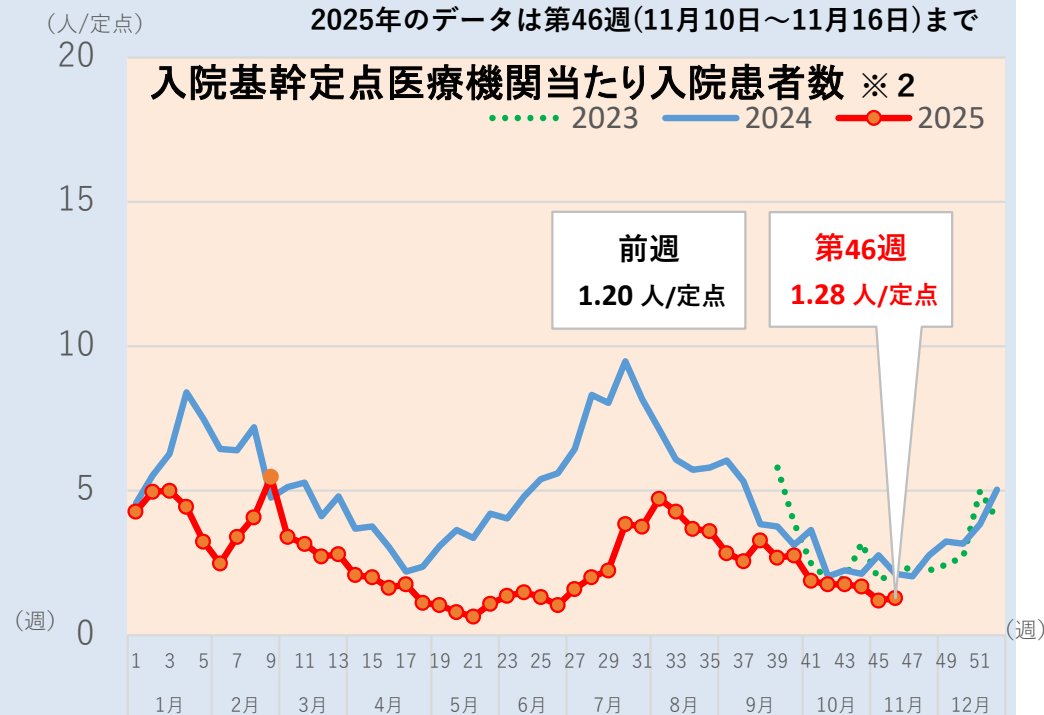
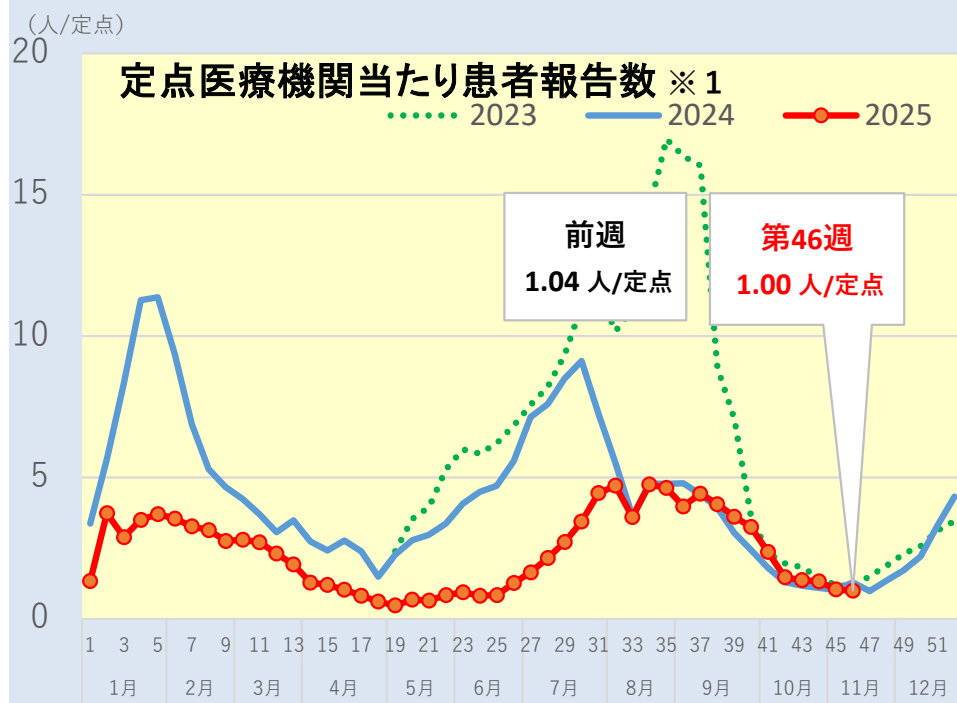
現在の状況

- 第45週に警報レベルにある保健所が31か所中12か所となり、当該保健所管内人口の割合が都全体の46.18%に達し、**昨年より6週早く警報基準(30%)を超過**
- 第46週時点の報告数は**44.75人/定点**で、2週連続で警報基準を超過
- 現時点では**AH3亜型**が主流

症状等

- 38℃以上の**発熱、頭痛、咽頭痛、咳、関節痛、筋肉痛等**の症状が比較的急速に現れる
- 小児はまれに**急性脳症**を、高齢者や免疫力の低下している方は**肺炎**を伴う等、重症化することがある

新型コロナウイルス感染症 - 五類感染症 - ～今後注意が必要な感染症～



※1 定点医療機関からの報告に基づく値（当該週の報告患者数／報告医療機関数）

（注）令和5年第19週から集計開始

※2 入院基幹定点医療機関からの報告に基づく値（当該週の入院患者数／報告医療機関数）

（注）令和5年第39週から集計開始

現在の状況

- 例年、夏季と冬季に患者報告数が増加。昨冬は12月から1月にかけてピーク
- 定点医療機関当たり患者報告数及び入院基幹定点医療機関当たり入院患者数は、上昇傾向は見られないが、今後の動向に注意が必要である。

マイコプラズマ肺炎 - 五類感染症 -

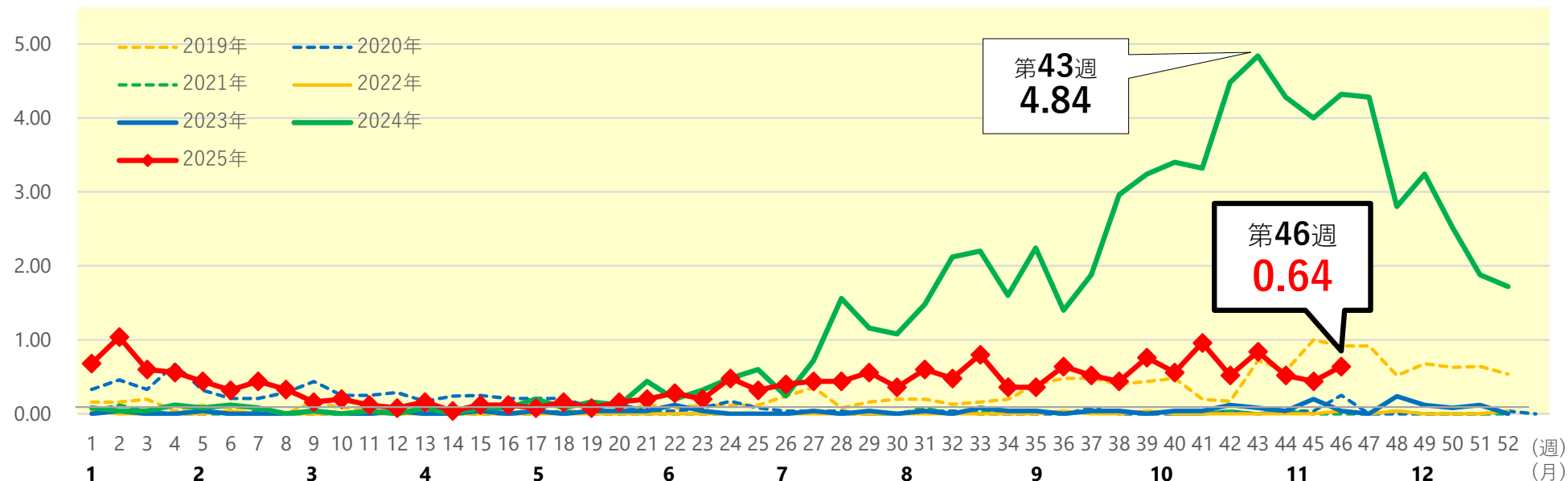
～ 今後注意が必要な感染症 ～

子供を中心に流行する感染症

都内定点医療機関あたりの患者報告数

(人/定点)

2025年のデータは第46週(11月10日～11月16日)まで



現在の状況

- 昨年は秋冬に感染が拡大、第43週時点で調査開始以来最多の4.84人/定点を記録
- 今年は第46週時点で0.64人/定点

症状等

- “肺炎マイコプラズマ (*Mycoplasma pneumoniae*)” という細菌による呼吸器感染症
- 発熱、全身倦怠感(だるさ)、頭痛、咳など、特に咳は3～4週間ほど続く
- 症状が軽くても肺炎を起こすことがあり注意が必要

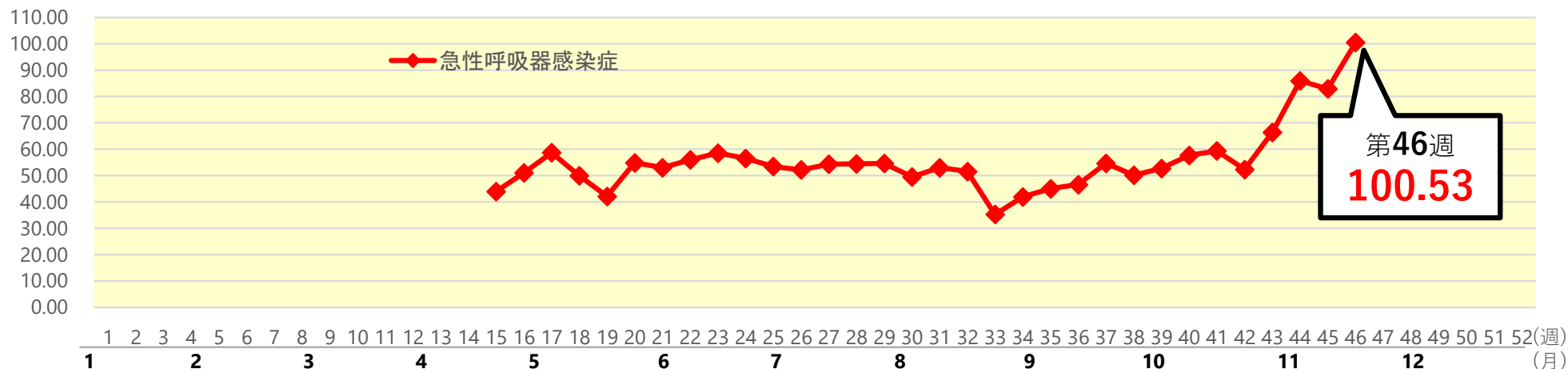
急性呼吸器感染症(ARI) - 五類感染症 -

～ 今後注意が必要な感染症 ～

都内定点医療機関あたりの患者報告数

2025年のデータは第46週(11月10日～11月16日)まで

(人/定点)



現在の状況

- 令和7年4月より急性呼吸器感染症サーベイランス開始
- 第46週時点で**100.53人/定点**、第44週から**高水準で経過**
- 直近の検査結果では、病源体はライノウイルス:28.4%、インフルエンザウイルス:21.6%、RSウイルス:12.2%、SARS-Cov2:8.1%などのウイルス性疾患が検出

急性呼吸器感染症 (Acute Respiratory Infection, ARI) とは

- 一つの病名ではなく、急性の上気道炎(鼻炎、中耳炎、咽頭炎等)や下気道炎(気管支炎、肺炎)を示す**症候群の総称**
- 症例定義:**咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉**のいずれか1つの症状を呈し、**発症から10日以内**の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

急性呼吸器感染症(ARI) - 五類感染症 -

～ 今後注意が必要な感染症 ～

急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランス

- 急性呼吸器感染症(ARI)は、感染症法施行規則の改正により、
令和7年4月7日から感染症法上の5類感染症(定点観測疾患)に指定
- 急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスの目的
 - ・国内の急性呼吸器感染症の発生の傾向(トレンド)や水準(レベル)を踏まえた**流行中の呼吸器感染症を把握**
 - ・**新興・再興感染症の発生を迅速に探知**

＜東京都感染症情報センターのホームページでの公表＞

<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/diseases/ari/ari/>

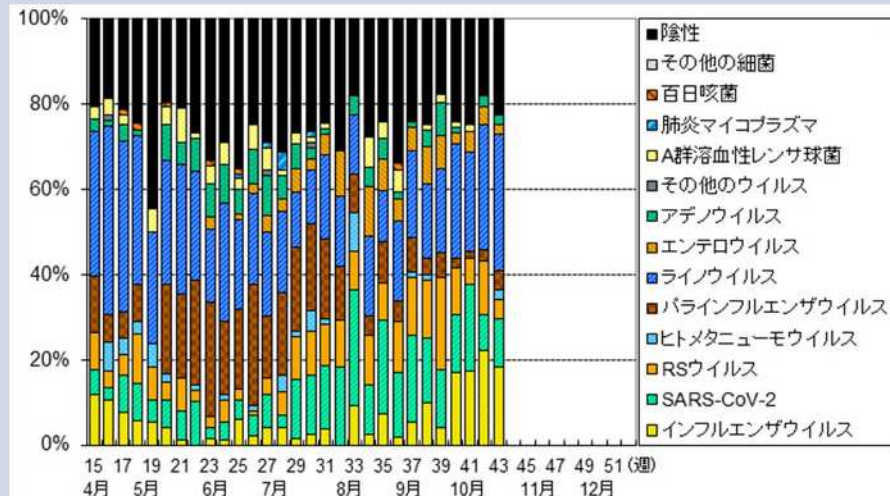
患者報告数 (毎週)

- ・ **都内419箇所**の医療機関から患者数を報告



病原体の分析

- ・ **都内41箇所**の医療機関から検体を回収し、分析



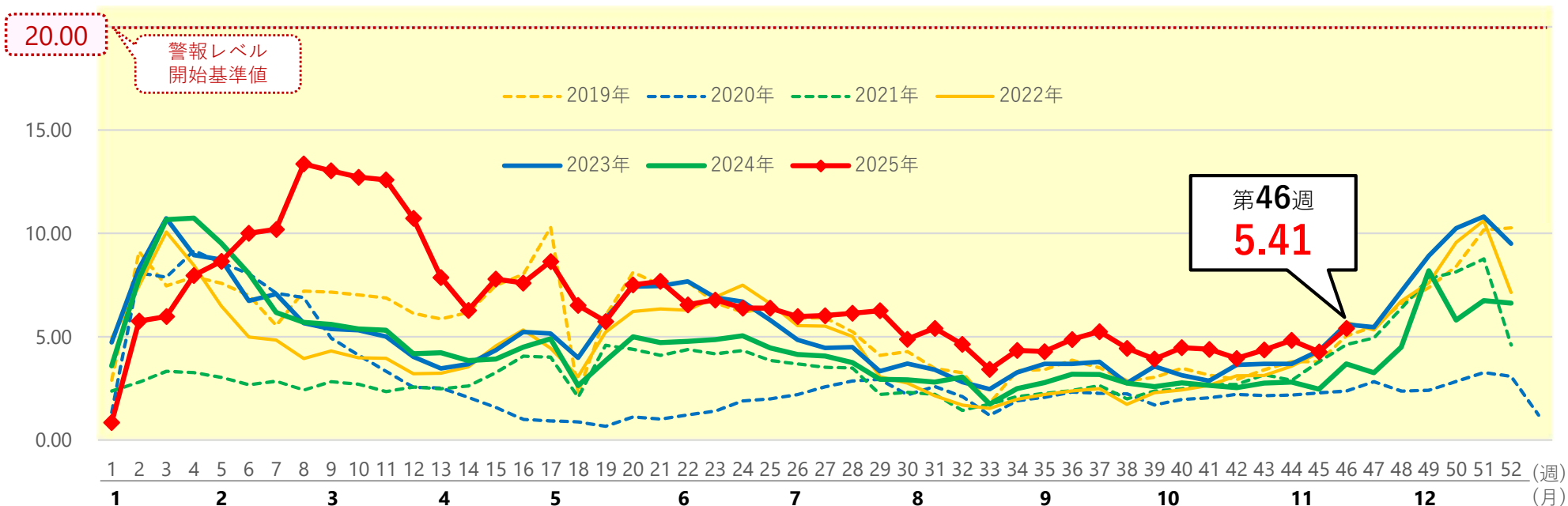
感染性胃腸炎 - 五類感染症 -

～ 今後注意が必要な感染症 ～

都内定点医療機関あたりの患者報告数

2025年のデータは第46週(11月10日～11月16日)まで

(人/定点)



現在の状況

- 毎年**秋から冬にかけて流行**
- 昨年より**ノロウイルスGⅡ.17が主流**
- 今年は第46週時点で**5.41人/定点**

症状等

- **吐き気、おう吐、下痢、発熱、腹痛**など
- 乳幼児や高齢者では下痢等による**脱水症状を生じる**ことがある

都民への呼びかけ

～ 今後注意が必要な感染症 ～

新型コロナ・インフルエンザなどの急性呼吸器感染症

- こまめな手洗い、咳エチケット、換気などの感染予防策
- 十分な休養・栄養・水分補給
- ワクチン接種の検討(かかりつけ医と相談)
- 人混みへの外出を避ける(特に高齢の方や基礎疾患のある方、妊婦の方等)



【掲載場所】 <https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kanzen/info/influ/shingatainflu/keihatsu>

感染性胃腸炎

- こまめな手洗い・消毒
 - 調理・食事の前、トイレの後には、石けんと流水で十分な手洗い
 - 便やおう吐物は使い捨て手袋、マスク等を着用して処理し、次亜塩素酸ナトリウムで消毒
- 食品の加熱・調理
 - 食品を十分に加熱し、特に二枚貝などは中心部まで十分に加熱
 - 野菜等の生鮮食品は水道水でよく洗う



【掲載場所】 <https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/pamphlet2/pamphlet.html>